

気仙沼市議会議員 今川悟 2014年度の公約自己評価



子供たちの未来のため、気仙沼を元気にしよう—と市議会議員に立候補し、皆さんの応援によって当選してからもうすぐ1年が過ぎます。地元の面瀬地区だけでなく、気仙沼全体のさまざまな課題に取り組んだ1年でしたが、成果は十分とはいえません。残り3年の任期を全力で課題解決に当たりますので、引き続き応援よろしくお願い致します。公約の自己評価を報告いたします。

なお、公約のほかに、面瀬地区まちづくり協議会の立ち上げ、各種問題の解決などに取り組んできました。地区のことだけでなく、気仙沼市全体の課題、将来へ向けた課題にも挑んでいきます。

【5段階評価の基準】

1-取り組み・成果ともなし 2-取り組んだが成果なし 3-これから成果がでそう 4-成果はあったが課題あり 5-十分な成果があった

	公約	評価	具体的な取り組み内容と今後の目標
防 災	津波浸水域で再開した施設の安全対策推進	4	水産加工場などへの津波避難階段補助などを提案し、市から前向きな回答を得るも財源が未確定。再建の本格化を前に補助メニューを提示するように引き続き市へ提言していく。
	災害危険区域の検証へ全地区踏査	4	区域設定の問題は迫及するも、思うように時間がつかず、一部地区の踏査にとどまる。防潮堤計画の修正に伴う津波シミュレーションが予定されており、さらに問題点を洗い出す。
	学校の防災教育支援	2	防災士として協力を申し入れるも動きなし。面瀬地区まちづくり協議会としては、面瀬小でのジオラマづくり、面瀬中との連携を通して防災教育に協力した。今後はより積極的に支援していく。
	震災教訓を整理して市内外へ発信	5	震災前への対応を含め、避難、広報などの課題をまとめ、ホームページやレポートで発信。マスコミ、研究者、学生など100人以上を受け入れて被災地を案内した。今後も検証を続ける。
	防潮堤計画の検証	5	各地区の説明会に出来る限り出席し、問題点を整理して議会で取り上げた。安倍総理夫人のシンポジウムなどにも参加。今後は問題のある計画について見直しを求め、一連の記録を整理していく。
	気仙沼市危機管理監の特別職化を提言	4	市議会で取り上げ、市の重要問題を話し合う「庁議」への危機管理監出席を常態化させた。震災検証に積極的に取り組むことも提言し、具体的な対応につなげた。今後は特別職化を提言していく。
	行政の防災優先度を上げる	4	危機管理監の権限強化、水産加工場などへの避難施設補助、震災検証、避難道整備などを提言した。今後は災害に強いまちづくりのため、行政が見落としがちな点を指摘して改善につなげていく。
子 育 て	「子育て応援都市宣言」を目指す	3	行政として子育てに力を入れていくことを宣言しようと考え、条例制定へ向けて勉強中。具体的な成果はないが、子育てママと市長の座談会などを支援した。
	保育所と小中学校再編計画の検証	3	内容を検証したが、行政との議論は不十分。各地区での説明会と合意形成になっているので、先進例や課題などを発信して、納得できる結論へ導きたい。
	運動広場や野球場の早期整備	2	仮設住宅が解消されるまでの間、災害危険区域内への暫定的な広場整備を目指したが、まとまった土地は残土置き場に活用されて断念した。今後、仮設住宅集約化などを調べて運動場の開放を目指す。
	高校再編へ地域が話し合う場を設定	4	気仙沼西高校の統合に合わせて、同窓会役員として、本吉地区全体の将来的な高校再編についても議論する場を県教委に要望した。具体的な動きはまだないが、今後も機会があるごとに提言していく。
	子育て世代が利用できる公園の整備	3	尾崎地区に計画されている防災公園で、意見を出しやすいうようにワークショップ化を働き掛けた。復興とともに多くの公園が整備されるので、機能分担によって子ども向けの公園整備を目指す。
復 興	市震災復興計画の見直しを提言	3	計画見直しを求めたが、市は消極的。市総合計画の策定の中で対応していくとの回答だった。今後は、事業の優先度整理が必要となるため、市民の意見を反映させていく。
	「沿岸の復興」から「市全域のまちづくり」へ	3	復興計画を見直し、市全体のまちづくりの観点を持った復興を目指したが、行政側にはそのゆとりがなかった。今後は将来を見据えたまちづくりへ、「鶴の目鷹の目」の視点で提言していく。
	地域間格差の是正	2	市の政策が旧市街地に偏っていることから、地域間格差の是正を目指した。郊外部の復興などで疑問を交わしたものの、具体的な政策にはつながらなかった。今後も継続して取り組む。
	震災慰霊碑の早期建立を働き掛ける	3	他の多くの議員がこの問題を取り上げたため、議会では特に迫及しなかったが、神戸の事例を自費で視察した。場所の選定を含めてこれから議論を深めていきたい。
	行政による説明会資料を分かりやすく改善	4	防潮堤計画をはじめとする県や市の説明資料が分かりにくいので、担当者に具体的な改善を求めた。市へは模型やワークショップの導入などを提案し、状況に応じて対応するとの回答を得た。
	復興・防災情報センター設立を目指す	3	設立に向けて、資料収集に努めたが、具体的な構想は未定。今後、メンバーを探してスケジュールなどを具体化させていくが、当面は準備になる。
	夢の持てる復興へアイデアを募って実現へ	3	さまざまな機会を通して、復興へのアイデアを聞き、具現化しそうなものもある。当初考えていた「公募」の仕組みはつかず、公約の見直しを含めて検討していく。
	被災市町との連携強化。教訓共有	4	陸前高田市、南三陸町の若手議員と面会し、連携していくことを確認した。まずは互いの市町の被災・復興状況を説明することから始め、具体的な政策連携も話し合っている。

公約		評価	具体的な取り組み内容と今後の目標
まちづくり	若者によるまちづくりを積極支援	4	各団体が取り組む活動に参加したり、裏方として支援したりした。最も力を入れたのは、人と人のネットワークづくり、行政情報の提供。今後も積極的に支援していきたい。
	政治を志す若者のバックアップ	3	将来の気仙沼にはやる気のある政治家が欠かせないので、若者が政治に関心を持つように情報発信に力を入れた。どんな活動をしているか、議員の収支を毎月公開している。今後も継続する。
	若者が意見交換できる場所づくり	4	子育てママサークルの運営を支援し、若い母親たちとの座談会を26年度に2回実施したほか、さまざまなイベントに参加して若者たちと意見交換した。今後は定期的な交流の場づくりを目指す。
	E S D(持続発展教育)の精神をまちづくりへ	2	防潮堤、災害危険区域、防災など、いずれも持続発展の視点で検証しているが、具体的な成果は出せていない。今後もこの視点を大切にしながら、公約に掲げた割には不十分な取り組みだった。
産業	地域を支える漁船漁業の後継者育成	2	1年目は議会活動を優先させたため、早朝の魚市場へは足を運べなかった。水産関係者とは機会あるごとに意見交換しており、今後は現場にできるだけ行って課題解決の方策を見つけ出したい。
	震災を学ぶ観光ツアーの充実・支援	3	観光協会の語り部への資料提供を想定したが、連携には至っていない。資料は整理してあるので、今後はこちらから売り込みをかけたい。被災地案内のコースは設定して公表している。
	地域や産業へ支援を受けるための情報発信	4	被災地支援をできるだけ続けてもらえるように情報発信し、支援や寄付を仲介できた。今後は、自立へ向けた支援が必要になるため、引き続き情報発信とマッチングに努めていく。
	三陸道と大島架橋完成後のまちづくり検討	3	それぞれの問題点は整理してきたが、議会での具体的な提言には至っていない。今年の議会で三陸道の問題は取り上げる予定。大島架橋は鹿折地区のまちづくり影響することを訴えたい。
行財政	財政シミュレーションの早期実施働き掛け	5	財政シミュレーションの早期公表を働き掛けた結果、26年9月に公表された。その内容を十分に検証し、政策提言に反映させてきたが、今後は市民向けに分かりやすく情報発信したい。
	災害公営住宅の維持管理・活用策を提言	4	完成する前から災害公営住宅の維持管理、ランニングコストを継続して調査し、国の補助によって黒字化できることが分かった。今後は入居者の支援、仮設住宅の活用も研究して提言していく。
	都市計画区域の検証と見直し提言	3	都市計画税を納め続けながら何の恩恵も受けていない地域を整理した結果、市も内部検討を始めた。区域見直しが必要かどうか、地元の意向を確認しながら市に提言していく。
	縦割り行政を改善するためのマネジメント	4	縦割り行政を改善するため、ひたすら各課に足を運び、情報提供や問題点指摘に努めた。特に防潮堤問題では、国、県、市の縦割り、漁港、建設海岸などで複雑なため、こまめにフォローした。
	指定管理者制度と嘱託職員の課題追及	2	問題の整理に努めたが、震災復興の混乱期にあつて解決策の提言には至っていない。将来的には大きな課題のため、今後も継続して問題の整理に当たり、解決策を模索したい。
他	気仙沼復興レポートを毎月発表	5	26年3月から毎月11日に気仙沼復興レポートを発表。防潮堤、人口減少、災害公営住宅、財政など、さまざまなテーマを取り上げ、マスコミにも紹介された。発表を続けて将来的に冊子にする。

※公約の評価は1年ごとに実施して報告します。今川悟ホームページでも公表します。

27年度の重点テーマ

- ・将来の財政問題を研究
(災害公営住宅の維持費・戦略的な財政)
- ・JR気仙沼線復旧の議論
(BRTと鉄道のメリットとデメリットを整理)
- ・三陸道と大島架橋の完成へ向けた活用策
(開通まで3年。地域交通の変化予測)
- ・都市計画区域の課税区域見直し
(面瀬・階上の都市計画の見直しを追及)
- ・認定こども園化の調査
(公共施設の複合化、子育て支援)
- ・公共施設管理計画の策定を推進
(財政とともに重要な課題。公園の機能分担)
- ・仮設住宅の出口戦略
(集約化と合わせて支援策を提言)
- ・水産業の課題整理
(人手不足と後継者対策)
- ・防潮堤計画の監視
(磯根資源への影響、防災面での課題)
- ・地方創生と少子化対策
(事例研究とアイデア探し。打開策を追及)

年間出生数の推移と推測

1979年	1254人
↓ 35年後	
2014年	387人
↓ 35年後 30%	
2049年	116人
↓ 35年後 30%	
2084年	35人
↓ 35年後 30%	
2119年	10人



気仙沼復興レポートの発表

毎月11日に発表しているレポートには、復興の現状と課題などをまとめています。毎月50部を印刷して関係者に配布しているほか、ホームページで公表しています。読者は少しずつ増えており、毎回200人前後の方が見てくれています。継続して発行し、将来的には冊子にまとめて復興の記録としたいです。各回のテーマは以下の通り。

- ① 少子化と人口減少 6p
- ② 未来に遺す防潮堤とは 22p
- ③ 消えていく復興予算 6p
- ④ 鉄道復旧とBRT化 7p
- ⑤ 被災地の高校教育環境 5p
- ⑥ 高騰する災害公営住宅 7p
- ⑦ 仮設住宅の記録とこれから 7p
- ⑧ 復興後の財政見直しは 6p
- ⑨ 危険区域と災害リスク 9p
- ⑩ 震災遺構とは 6p
- ⑪ 被災地の人手不足 9p
- ⑫ 防災公園の役割と活用 6p
- ⑬ 震災の教訓(津波被害編) 14p

<http://imakawa.net>